

# 伊藤外科ニュース



## 103号

2013.02 発行

思い出の地、熱海

2月上旬に約15年ぶりに熱海に行ってきました。この地は昭和30年の後半から40年前半にかけて親戚たちと夏休みによく行った場所です。海水プールで泳いだり、林の中で昆虫採集したりした記憶を懐かしく思い出しました。今回は、家内との一泊の旅行でしたが「熱海桜」が綺麗に咲き一足早い春の風情を楽しんできました。

一方で、私が従兄弟たちと泊まった当時はオシャレだった西洋風の熱海ホテルは、はるか昔に壊され今ではどの場所にあったのかも定かではありませんでした。急に決めた旅行でしたので海辺の宿屋は予約できず、山の中腹の宿に泊まりましたが、海の色が素晴らしく綺麗でゆっくり温泉に浸かって帰って来ました。

### 甲状腺のお話

さて、今回は甲状腺の病気について少々お話しいたします。甲状腺は首の前面、喉仏の下にある蝶ネクタイ型の通常20グラム程度の臓器です。この臓器は、新陳代謝を活発にするホルモンを作り、身体をコントロールしています。そして、このホルモンの過剰や減少で様々な症状が出現します。

専門家の集計では、甲状腺機能異常は、女性に多く、一般外来患者さんの約13%の方に認められるようです。甲状腺ホルモンが過剰になるとバセドウ病に代表されるように新陳代謝が活発になり、多汗、頻脈、手の震えなどが出現します。

バセドウ病より頻度の高い機能低下症は「橋本病」と呼ばれます。この病気の症状は、便秘、倦怠感、うつ状態、脱毛、浮腫など多彩のため、患者さんは多くの診療科を受診されているようです。

検査値の異常では、コレステロールの高い患者さんや肝機能異常の方の中に機能低下症の方が散在されます。

私は、特に女性でコレステロールの極端に高い方や様々な症状で悩んでいる方には甲状腺の働きを知るために血液検査をします。典型的な症状が少ないことが多いので、医師がこの病気の存在を疑って診察する事がより重要です。甲状腺ホルモンの異常は判明した場合には、一般には内服薬による治療をじっくりと行います。

また、伊藤外科の外来では、頸動脈のエコー検査で動脈硬化を判定していますが、この際に甲状腺も観察します。甲状腺にも腫瘍が発生しますので、時には大学病院で精密検査を受ける必要性のある患者さんがいらっしゃいます。多くの腫瘍は悪性度の低いものですので、以降は専門医療機関での経過観察となります。いずれにしても、甲状腺の病気は意外な症状や甲状腺以外の検査異常値で疑う必要があります。

ところで、我が家の御年11歳のうさぎの「クロ」が天寿を全うしました。最近白内障を患いあまり元気ではなかったので家族みんなある程度覚悟はしていましたが、やはりペットを失うと寂しいものですね。「クロ」は、息子が小学校の夏休みの間に我が家で預かって以来の家族でした。オスなのにいつも世話をしている家内や娘より私に慣れてくれていました。私が週末に通っているジムの隣のスーパーに葉の付いたニンジンや大根を買いに行くことも無くなります。

長く寒い冬が続きますが、陽の温かさに感謝する事も多くなってきました。早く春が訪れますように。皆さん風邪を引かないように注意してください。



伊藤外科 HP <http://www11.ocn.ne.jp/~itoh-hp>

(バックナンバーはHPにて公開中です)

今月の「三弓先生の本棚」はお休みさせていただきます。来月からまた掲載させていただきます。(一弓)